

重要

水痘ワクチンを接種する前に内容をよく読み、十分理解してから接種をしましょう

■ 水痘について

水痘は「みずぼうそう」とも言われ、水痘一帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる感染症で、全身に水疱性の発疹がでます。感染力が強く、5歳までに約80%の子どもが罹患と言われています。

中には重症化したり合併症を起こす場合もあるので注意が必要です。

特に急性白血病や悪性腫瘍、免疫抑制剤を使用していたり、免疫機能が低下している方が水痘に罹患すると重症化しやすいと言われています。

妊娠初期の女性が水痘に罹患すると、生まれてくる児が「先天性水痘症候群(低出生体重、四肢低形成脳炎、小頭症など)」に罹患するリスクがあります。また妊婦の水痘は重症化しやすいとも言われていますので注意が必要です。

① 潜伏期間(感染した後、症状が出るまでの期間のこと)

約2週間程度(10~21日)

② 主な症状

発疹と発熱。発熱は38度前後の発熱が2~3日続き、時には40度を超える場合もあります。

③ 症状の経過

発疹は、顔や胸・腹部、頭部等に現れ、丘疹、水疱、膿疱、痂皮と移行します。発疹はかゆみを伴うため水疱を引っ掻くなどして、細菌の二次感染を起こすと瘢痕が残ることがあります。

合併症としては、稀に肺炎、気管支炎、肝炎、皮膚の細菌感染症、心膜炎、小脳炎、血小板減少性紫斑病などがあります。

■ 水痘ワクチンについて

(接種ワクチンについて)

乾燥弱毒生水痘ワクチン。このワクチンは製造工程でウシの血液由来成分(血清)及びブタの膵臓由来成分(トリプシン)を使用しています。

(水痘ワクチンの効果と副反応)

予防接種を受けることで体内に免疫ができ、水痘に罹患することを予防します。

ただし予防接種を受けることで、軽い副反応や極めて稀に重い副反応が起こることもあります。

【主な副反応】

発熱 発疹および局所の発赤・腫脹。稀に接種直後から翌日にかけて、発疹、じんましん、紅斑かゆみ等がみられることがあります。

【稀に生じる重い副反応】

アナフィラキシー症状(じんましん 呼吸困難等)、急性血小板減少性紫斑病

■ 予防接種による健康被害救済制度について

定期予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が残るような健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。健康被害の程度に応じた、法律で定められた金額が支給されます。健康被害が予防接種によって引き起こされたものなのか、別の要因によるものなのかの因果関係を国の審査会で審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることが出来ます。

■ 接種するに当たっての注意事項

- ① 接種当日は朝からお子さんの様子を観察し、ふだんと変わったところがないか確認してください。
- ② 予診票への記入内容は接種する医師への大切な情報です。接種当日責任を持って記入してください。
- ③ 接種には必ず保護者が同伴してください。

裏面に続く

● 接種を受けることが出来ません

- ① 発熱がある場合(通常37.5℃以上)
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③ 過去に水痘ワクチンに含まれる成分でアナフィラキシー(ひどいアレルギー反応)を起こしたことがある場合
- ④ 妊娠していることが明らかな人
- ⑤ 医師が予防接種を受けることが不適当な状態と判断した場合

● 接種を受ける際に医師との相談が必要です

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発達障害で治療を受けている場合
- ② 予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられたお子さん及び発疹、じんましんなどのアレルギーと思われる症状が見られた場合
- ③ 薬の投与または食事で皮膚に湿疹が出たり、体に異常をきたしたことがある場合
- ④ 過去にけいれん(ひきつけ)を起こしたことがある場合
- ⑤ 過去に免疫不全の診断がなされている場合及び近親者に先天性免疫不全の者がいる場合
- ⑥ 水痘ワクチンに含まれる成分でアレルギーを起こすおそれのある場合
- ⑦ 家族、遊び友達、クラスメートの間に麻しん・風しん、おたふくかぜ、水痘などの病気が流行している時で、まだその病気に罹ったことがない場合
- ⑧ 妊娠の可能性がある場合

■ 接種後の注意

- ① 予防接種を受けた後30分間は、医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐ連絡が取れるようにしておいてください。
- ② 予防接種後、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の発現に注意してください。
- ③ 接種部位は清潔に保ち、こすらないようにしてください。当日の入浴は差し支えありません。激しい運動は避けましょう。
- ④ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化等があった場合には、速やかに医師の診察を受けましょう。

説明文を読んで、もし分からないことがあれば、接種を受ける前に接種医や市役所健康増進課に相談しましょう。必ず、納得された上で、お子様に接種することを決めましょう



